

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:2024年 2月 19日

事業所名 ほがらかファミリー音羽

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2 職員の配置数は適切である	○		1対1で対応できるように職員を配置している。	
	3 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		定期的に会議を行い、且つ、療育の合間の時間でミーティングも行なっている。	
	5 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	6 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		現時点では、外部評価を行なう必要性がない。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・毎月1回、作業療法士を招き事業所内研修を行っている。 ・外部で受ける研修を紹介し、希望者を募ったり、勧めたりしている。	
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			
適切な支援の提供	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	使いやすさを考慮したオリジナルのものを作成して使っている。	
	11 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	12 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	13 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		毎日、どのような活動を展開するか話し合う時間を設け、各スタッフがアイデアを出し合って立案している。	
	14 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		水遊び等季節に合わせた遊びや、畑の活動、戸外活動などバラエティに富んだ活動をしている。	
	15 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		集団(2人~3人)の場合、それぞれの子どもの特徴を考慮して組み合わせを考えている。	
	16 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		支援前日に、必ず打合せを行なっている。	
	17 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・記録表にて、その日の支援についての振り返りを記録し、職員間で共有できるようにしている。 ・雑談の中でも、支援のことが話題にあがる。	
	18 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		記録係を設けている。	
	19 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		児童発達支援管理責任者以外にモニタリングを担当するスタッフを置き、複数の目で判断している。	
		20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者が出席している。
21 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		○			

関係機関や保護者との連携	22	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		医療的ケアが必要な子どもは通所していない。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		医療的ケアが必要な子どもは通所していない。
	24	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	積極的に保育園、幼稚園に出向き、情報共有をしている。	
	25	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		関係者会議で情報共有と相互理解を図っている。
	26	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		他の専門機関と極力繋がりを持ち、助言を受けたり情報交換を積極的に行っているが、連携とまではいっていない。
	27	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		利用者の兄弟姉妹たちと一緒に遊び、触れ合う機会を設けている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者に伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	要望や必要に応じて個別に保護者との相談時間を取り、共通理解が持てるように努めている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援を行っている	○	電話や対面で、事業所内保護者支援を行っている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	契約時に行っている。必要に応じて、契約後も説明を行うようにしている。	
	31	支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		
	32	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	定期的はこちらから事業所内相談の希望を募り、必要に応じて相談時間を設けている。	
	33	保護者同士の連携を支援している	○	・事業所のイベントや保護者向けヨガサークル等を通じて、保護者同士が交流できる機会を設けている。 ・同学区の保護者を紹介するなど、保護者同士の繋がりを仲立ちしている。	
	34	子どもや保護者からの相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○	児童発達支援管理責任者が即、対応している。	
	35	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	毎月、会報を発行している。	
	36	個人情報の取扱いに十分注意している	○	写真の取り扱いについて、同意書を得ている。	
	37	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		
38	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	事業所のイベントでは、地域の協力者を招待し、参加してもらっている。		
非常時等の対応	39	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○	マニュアルを作成し、職員への周知は出来ている。	保護者への周知が行き渡っていないところがあるので、通信等で知らせる必要を感じている。
	40	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	年2回、3月と9月に日を決めて行なっている。	
	41	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○	「状況確認シート」を作成し、毎年4月に保護者に記入してもらい把握している。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		食事は提供していないので、対応はしていないが、情報としては把握している。
	43	危険事例についての対応をしている。	○	気づいた時点で、すぐに対策を考え、共有している。また、記録として残している。	